

## 第 114 話<攻防 (1)>の要約と参考資料

### 第 114 話<攻防 (1)>の要約

1952 年 9 月、中島鉱山会社は土呂久鉱山に新焙焼炉建設を計画。会社には、住民の反対を押し切って建設の強行を主張する路線がありました。そんな中で土呂久鉱業所長に就任した小宮新八氏は、毒物亜砒酸の生産より鉛・亜鉛鉱などの採掘を重視する穏健派でした。

### 第 114 話<攻防 (1)>の参考資料

#### 1 1 4 - 1 1952 (昭和 27) 年の土呂久鉱山

福岡通産局管内 鉱区一覧 昭和 27 年 7 月 1 日現在より

採掘

登録番号	市町村	鉱山名	鉱種	鉱区面積	鉱業権者
65	岩戸	土呂久	金銀銅鉛錫亜鉛砒	247,500	中島鉱山株式会社
80	岩戸	土呂久	金銀銅鉛錫亜鉛砒	20,293	中島鉱山株式会社

東京都中央区左門町 1-3

中島鉱山株式会社「会社経歴書」より

鹿折製錬所は東北砒素工業の所有せるものであるが、27 年初めより之を借用、当初は附近の砒鉱を買収すると共に土呂久の高品位鉱石之を此の地に運搬して、猶採算有利な為送鉱していたが、最近 (昭和 31 年ごろ) は専ら日鉄鉱業喜茂別鉱山より含砒フロスを買収し之を製錬してゐる。

\*鹿折 (ししおり) 製錬所：気仙沼市にあった。戦後、土呂久鉱山の硫ヒ鉄鉱を運んでいた。積み出し方法は、土呂久から槇峰までトラック、槇峰から細島まで国鉄、細島から気仙沼まで船舶。委託加工としてやっていた。煙害問題が起こっても、中島鉱山に賠償責任はない。(小宮高樹氏の話)

小宮高樹氏の話 (1977 年 8 月 15 日聴取)

昭和 27 年ごろまで砒鉱を掘っていたが、自山では焙焼していない。27 年の初め、鹿折製錬所 (宮城県気仙沼市鹿折町上鹿折) を借りて焼き始める。送ってもコストは合ったが、もっとコストを減らしたい。そこで、土呂久に亜ヒ酸焙焼炉の建設計画が立てられた。このころは、砒鉱か銅砒鉱の鉱脈しかなかった。

佐藤実雄さんの話 (1980 年 7 月 27 日聴取)

小笠原武は試験窯をつくる前、会社から派遣されて、東北の八戸まで行き、亜ヒ酸焼きの修業をした。

#### 1 1 4 - 2 新焙焼炉建設計画

小笠原貞利さんの話（1980年3月18日聴取）

新窯の計画は本社から言うて来た。ヒ鉱を売るだけではつまらん。佐賀関あたりへ鉱石を運送しても……。焼かな引き合わん。それまで鉛ども採鉱してみた。突貫工事で下がり3番坑道から200メートルばかり鉛の鉱体が下がっちゃる。3か月くらい掘っていたところが、大きな鉛に当たった。それが鉛の鉱体。鉛1本で何年か食うた。鉛のケツがこもなったので、本社から「鉛も少ない。ヒ鉱でも焼かせてもらわんと、人員整理せないかん」と言うて来とったところで、わしが第1斜坑から第2斜坑にほがすと、2、3発切り込んだところで黄銅鉱にぶち当たった。本社に電報を打った。しばらく（2～3年）これで食べた。その後、黄銅鉱も減って、ヒ鉱になってしもた。引きあわん。どうしても窯の問題を部落と交渉して焼くようにした。あとさの下がりつめて、鉛のケツは小さい。中島としては、下がれば下がるしこ、ポンプの数いみるし、苦しくなって、住友の応援を得るようになった。

中島鉱山会社「土呂久鉱山亜砒酸炉建設計画書」（昭和27年9月）より

目的 低品位の含銅砒鉱（Cu2.5%、As27%）を焙焼し、焼成鉱の銅品位を高めると同時に副産物として亜砒酸を得、収入の増加を計る事に依り、現在の不利な売鉱条件を解消するにあり。

毎月の販売量

7月下旬、西掘下り第3番坑東押にて、黄銅鉱の直りに当たった。依って毎月左の通り生産並に販売を期待して居る。

販売量	銅鉱（塊）	（5%）	50 吨
	焼成銅鉱	（3.6%）	32 吨
	亜砒酸	（99.5%）	13 吨

備考 含銅砒鉱（Cu2.5%、As27%）50 吨を焙焼して、右の焼成銅鉱及亜砒酸を生産する。焙焼の際の焼成率 65%、銅の実収率 95%。

亜砒酸炉

イ、炉の形式	円筒形豎型炉	内径 1.5 米、高さ 3 米
ロ、処理能力	1 日鉱石 2 トン	

#### 1 1 4 - 3 小宮新八氏について

宮崎法務局延岡支局保存閉鎖登記簿謄本より

岩戸鉱山株式会社設立時（昭和 11 年 12 月 23 日）の「監査役」

土呂久鉱山労働者名簿より

小宮新八 明治 30 年 4 月 18 日生

入社昭和 27 年 10 月 15 日～退社昭和 31 年 2 月 11 日

墓碑（向土呂久の墓地に建っている）

（側面） 略歴 東京ニコライ露卒、昭和 16 年 3 月 15 日興亜学院採鉱科卒、中島商事社員、大分県木浦鉱業所長在勤 2 カ年、昭和 27 年 10 月 1 日土呂久鉱業所長勤務、昭和 31 年 2 月 11 日逝去、行年 60 歳。

（背面） 惟任日向高千穂の 名を言ふ三弥の土呂久山  
こがねしろがね地下資源 小豆八斗の蒔き高は  
犢（ことひ）の牛の角とやら 絶ゆることなき鉱脈に  
捧げし命の尊とけれ 宝池山泉福寺非宝詠

群馬県邑楽郡小泉町 1422 小宮高樹之父

岩戸土呂久 小宮ミホ之夫

佐藤ツルさんの話（2021 年 7 月 28 日 電話で聴取）

昔、中島飛行機におらして、戦後になって土呂久に行けち言われて、群馬に親せきがあるのに、こっちに来らしたらしいですがね。心臓の病気で鉱山の所長をやめるごとになって、下に降りて死んだってす。向土呂久のいちょうの木の下に骨を埋めてくれということだったんで、そこに墓を建てて、群馬にある墓から分骨したってすがね。ミホさんの墓は、岩戸の泉福寺が納骨堂を建てたとき、そこに預けました。2 人の娘が日之影の八戸において、お参りに来るので、私もお参りするってすよ。

小宮新八のメモより

入社 昭和 25 年 10 月 1 日

土呂久在勤辞令 昭和 27 年 10 月 1 日

同着任 昭和 27 年 10 月 15 日

社員辞職辞令 昭和 29 年 6 月 30 日

嘱託辞令 昭和 29 年 7 月 1 日

社員時代の給料 14,000

嘱託給料 33,000 （諸手当なし）

\*所長は昭和 30 年 2 月末まで続けたと思われるが、所長時代に定年、其の後は嘱託になったのではなかろうか。（川原）

小宮高樹さんの話（1977年8月15日聴取）

入社したのは昭和25年10月。4年半のブランクがあった。土呂久に行ったとき、中島鉱山はヤマの施設を切り売りしていた、との話がある。昭和30年2月末で休職になったとき、中島系列（直系）の人間は一人も居なくなった。この時期に、住友所有の3鉱区を中島に譲ったのは、実質的な住友支配ができあがったからだと思う。

富高ツユ子さんの話（1979年4月20日聴取）

（小宮さんは）鉱山追われて、首になって、半年以上この下（春目のツユ子さん宅下）におったろう。夫婦とも鉱山の社宅におられず、ここで死んだとよ。かわいそうに、なんでもかしらん。「亜砒焼いて大丈夫か」と聞くと、小宮さん、いい人じゃったよ。「煙突を長くしたのがごまかしよ。ほんの嘘じゃが、ありゃ、ほんといかんとよ」「煙道を長くすれば臭いがなくなると、ごまかした」ち言いよった。胸部疾患に心臓など悪くなって、弱くなってから、首にされてしまった。「おいときゃいいのに」。上でできた千保子をここに連れてきて育てた。

佐藤仲治さんの話（1980年7月27日聴取）

小宮所長は胸部疾患で悪かった。会社辞めて、春目にしばらくおって、ここで死なした。

1 1 4—4 鉱山内部文書による亜ヒ酸製造再開時の動き（1952年）

1952（昭和27）年

27年初めより 中島鉱山株式会社「会社経歴書」によれば「鹿折製錬所は東北砒素工業の所有せるものであるが、27年初めより之を借用、当初は附近の砒鉱を買収すると共に土呂久の高品位鉱石之を此の地に運搬して、猶採算有利な為送鉱していたが、最近（昭和31年ごろ）は専ら日鉄鉱業喜茂別鉱山より含砒フロスを買収し之を製錬してゐる」

6月25日 「亜砒酸焙焼1吨試験炉建設予算書」（土呂久鉱業所業務書簡綴）

9月 「土呂久鉱山亜砒酸炉建設計画書」できる。目的は「低品位の含銅砒鉱を焙焼し焼成砒の銅品位を高めると同時に副産物として亜砒酸を得、収入の増加を計る事に依り、現在の不利な売鉱条件を解消するにあり」となっていた。

9月20日 土呂久鉱業所幹部から新木浦鉱業所幹部あて書簡。「亜砒酸焙焼の件は荒井氏より十一郎氏に話し、村が役場の会合で正式に話すとの事ですが、恐らく正式承認は難しいと思ひますので、当方から一方的に試験焙焼するからといって強行する外ないと思ひます」「結局一番坑の旧焙焼炉のところに設置して、煙突は高いところへ持っていかず、SO<sub>2</sub>は藁屋根から落ちる水に吸収さ

せ煙害も極力少なくする方法が最も良いと思います」

- 10月1日 土呂久鉦業所長に小宮新八氏就任
- 10月20日 小宮、日野、丸岡（案内人）で住友鉦区黒葛原調査（小宮手帳）
- 10月21日 藤田7号鉦区及萱野鉦区調査（小宮手帳）
- 10月22日 中の内調査（中島所有）（小宮手帳）
- 11月28日 茅野鉦山（亜鉛鉦） 岩戸黒木氏と会見す。  
大正末期頃 神戸の山元商會が亜砒を操業した際に、佐藤氏が茅野の主任をして居たとき出した亜鉛鉦である。茅野取り明け。二番坑130m、大切58m（途中迄）。茅野亜鉛貯鉦は坑内から出したもので無く、昔の貯鉦の中から選鉦したものである。（小宮手帳）
- 12月11日 黒葛原鉦山再調査（小宮手帳）